

# 帰国・外国人児童生徒 が生き生きと学校生活 を送るために

～受入れと指導のQ & A～

北海道教育庁義務教育課

令和6年度 追補版

## まえがき

近年、日本に在留する外国人は増加の一途をたどっており、国において、「日本語教育の推進に関する法律」により策定された「日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」に基づき、令和2年7月に「外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針」が策定されるなど、市町村や学校における外国人児童生徒等教育の充実が一層求められています。

このような中、北海道においても、外国人の子どもは年々増加傾向にあり、こうした子どもたちの受入れ体制の整備や日本語指導、学校生活への適応指導の充実は、喫緊の課題となっています。

道教委では、各学校に在籍する外国人の子どもたちが、日本における生活の基礎を身に付け、その能力を伸ばし未来を切り拓くことができるよう、外国人の子どもの受入れ体制の整備や日本語指導の在り方などについて、Q&Aで解説した本資料を作成しています。

この度、日本語指導を専門とする有識者の方によるコラムの内容を更新するとともに、道内において外国人児童生徒等教育について先進的な取組を推進している学校の実践事例を掲載した別冊版を加え、内容の充実を図りました。

各学校や各市町村教育委員会においては、多文化共生の学校づくりに向け、本資料を積極的に活用し、受入れ体制の整備、日本語指導や学校生活への適応指導の充実に努めていただくようお願いします。

令和7年3月

# 目 次

<b>はじめに</b>	異文化理解や多文化共生の視点に立った学校づくりを推進しましょう……	1
<b>コラム</b>	ことばの上でも「居場所」のある学校づくり 北海道教育大学准教授 阿部 二郎 氏	
<b>1 受入れ時の学校、学級担任の対応</b>		
1-1	面接時にはどのような内容を確認すればよいですか。……	3
1-2	学級担任として、受入れ時に、どのような配慮が必要ですか。……	4
1-3	外国人保護者との連絡はどのようにすればよいですか。……	6
1-4	あまり日本語が得意でない保護者とのコミュニケーションをとるには、どうしたらよいですか。……	7
<b>コラム</b>	やさしい日本語と多言語翻訳システムの併用を 北海道教育大学准教授 伊藤 美紀 氏	
<b>2 学校生活への適応</b>		
2-1	学校生活になじめない様子が見られます。どのような配慮が必要ですか。……	8
2-2	日本の学校のきまりを理解していない場合は、どのように対応をすればよいですか。……	9
<b>コラム</b>	ヒジャブの着用も人それぞれ 函館大谷短期大学助教 村田あきの 氏	
2-3	いじめを受けていると言って学校に行きたがらない場合は、どのような対応をすればよいですか。……	10
2-4	給食が食べられない時は、どのような対応をすればよいですか。……	11
2-5	水泳の授業や日曜日の登校などで配慮することは何ですか。……	12
<b>3 日本語指導・学習指導</b>		
3-1	初期段階の日本語指導では、どのようなことが大切ですか。……	13
3-2	まずはじめに、どのような日本語指導が必要ですか。……	14
<b>コラム</b>	二つの「日本語」と二つの「言語能力」 北海道教育大学准教授 阿部 二郎 氏	
3-3	サバイバル日本語の次にどのような指導が必要ですか。……	16
3-4	日本語基礎とはどのようなプログラムですか。……	17
3-5	技能別日本語とはどのようなプログラムですか。……	18
3-6	JSL カリキュラムとはどのようなプログラムですか。……	19
3-7	学習評価をどのように行うとよいですか。……	20
3-8	帰国・外国人児童生徒のよさを生かした国際理解教育を進めるには、どのような点に配慮すればよいですか。……	21
<b>コラム</b>	「国の紹介」の留意事項 北海道教育大学准教授 阿部 二郎 氏	
3-9	高校入学者選抜や進路に向けた指導は、どのように行えばよいですか。……	22
<b>4 日本語能力の把握(対話型アセスメント「DLA」)</b>		
4-1	児童生徒の日本語能力を把握するためには、どのような方法がありますか。……	24
4-2	「DLA」を実施する際の配慮について ……	25
<b>5 「特別の教育課程」による日本語指導</b>		
5-1	日本語指導が必要な児童生徒に対し、計画的に指導を行うための「特別の教育課程」とは、どのようなものですか。……	27
5-2	指導計画にはどのようなことを記載するとよいですか。……	28
5-3	指導計画を作成するに当たっては、どのようなことに留意すべきですか。……	29
<b>6 市町村教育委員会による外国人の子どもの就学促進の取組</b>		
6-1	就学の義務のない外国人の子どもの就学促進は、なぜ必要なのですか。……	30
6-2	学齢相当の子どもがいる外国人が住民登録に訪れた場合、どのような手順で対応したらよいですか。……	31
6-3	当初の就学案内では、外国人が子どもの義務教育諸学校への就学を希望しなかった場合、その後、どのように対応したらよいですか。……	32
6-4	学齢を経過した外国人を公立の中学校で受け入れることは可能ですか。……	33
<b>コラム</b>	編入学年の検討と学校環境の整備 北海道教育大学准教授 伊藤 美紀 氏	
6-5	市町村として受入れ体制を整備するために、どのような取組が必要ですか。……	34
<b>7 各種様式・資料</b>		
7-1	受入れ時調査票様式例 (英語版・中国語版・タガログ語版・スペイン語版) ……	36
7-2	指導計画の参考様式 ……	44
7-3	児童生徒理解・支援シート参考様式 ……	46
7-4	教材等各種HPリスト ……	51

## はじめに

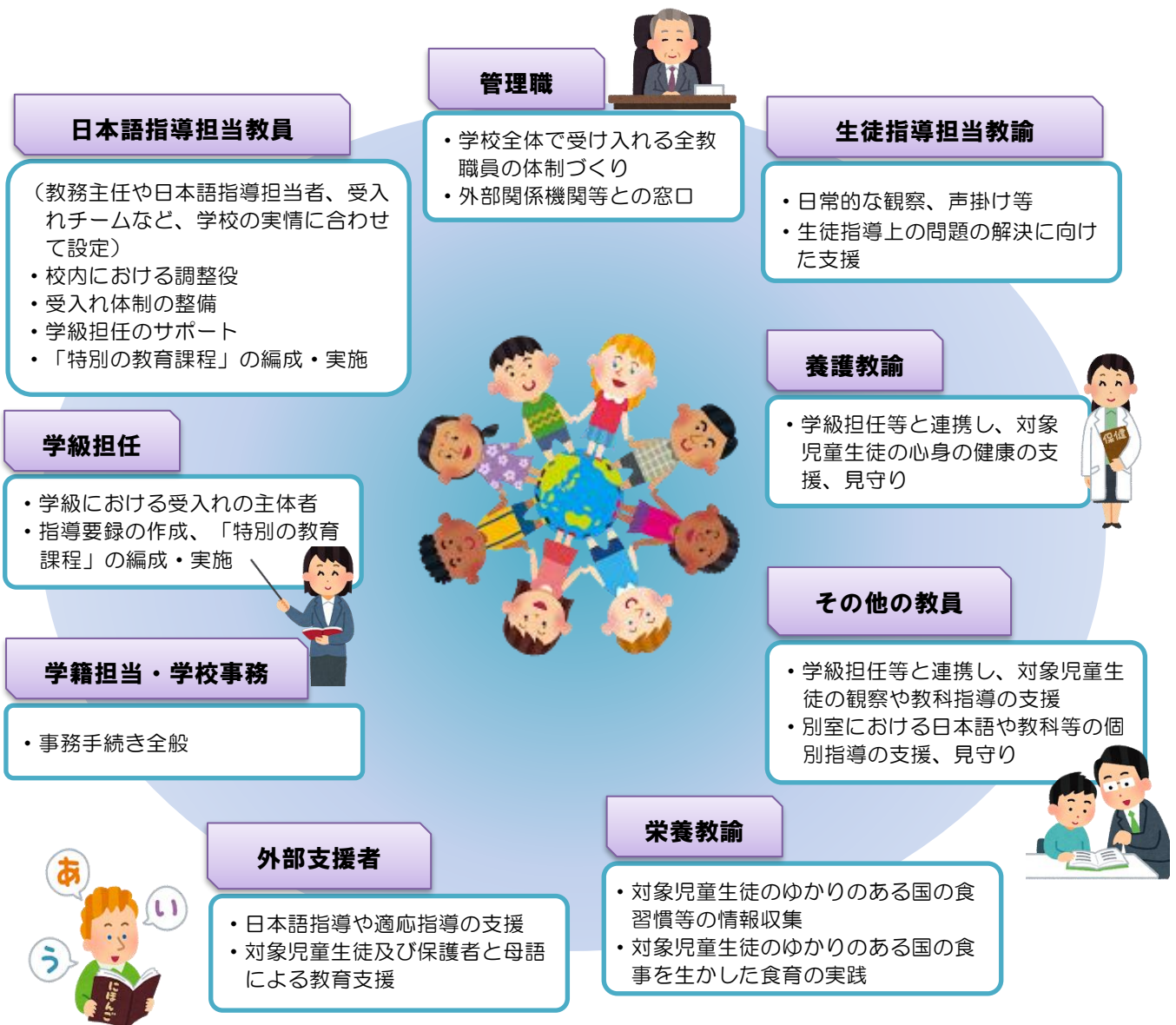
## 異文化理解や多文化共生の視点に立った学校づくりを推進しましょう

外国人児童生徒等教育の推進に当たっては、異文化理解や多文化共生の視点が重要です。

日本人と外国人の子どもが、異なった文化を互いに理解するとともに、相互に助け合い、時には葛藤しながらも認め合う態度・資質を育むことが求められます。

異文化理解や多文化共生の視点に立った教育を推進することにより、外国人の子どもが日本の文化や習慣について理解できるようになることや、日本人の子どもと外国人の子どもが共に学ぶことで、異文化を理解する能力やコミュニケーション能力が育まれるといった効果が期待できます。

管理職は、異文化理解や多文化共生の視点も含め外国人児童生徒等教育についての明確なビジョンを示し、全教職員で目標を共有することにより、学校の教育活動全体で取り組んでいくようにすることが大切です。



「もしも自身がある日突然子どもに戻って、知らない国の学校に通うことになったら」という状況を想像してみてください。その学校では大人も子どもも日本語は一切話せません。会話だけでなく、校内や教室の掲示物も教科書も全て読めない文字で書かれています。授業では先生も他の子も何を言っているのかわかりません。みんな黒板の文字をノートに写しているのに、自分もとりあえず読めない文字を、幾何学模様を描くようにノートに写します。休み時間に他のクラスメートは楽しそうに話をしていますが、ことばの通じない自分は輪に入れず一人席に座って過ごします。そんな状況が毎日続いたら、いつか学校に行きたいとは思えなくなるでしょう。

登校から下校まで外国語に囲まれ、みんなは自分の分からないことばで話していて自分は母語が全く使えない。そうした環境に置かれた時のストレスは察するに余りあります。日本語の指導を要する子の多くはそんな状況にあります。そんな時に少しでも母語に触れることができたなら安心感が得られます。

たとえば、校内掲示の一部を多言語表示にする（たとえば「職員室」というプレートの下にその子の母語で書かれたシールを貼るなど）という取組があります。その場合、その子は安心感を得るとともに「学校に受け入れられている」感覚が得られるかもしれません。それと同時に、在籍学級だけでなく全校生徒が自分の学校に海外ルーツの子がいるという感覚を共有するという効果もあります。また、母語の簡単な挨拶などを紹介する「〇〇語講座」をやってもらうことで自己肯定感を高めるというケースもあります。そのほか、母語支援員等のいる学校では、日本語の通訳をしてもらうことに加え、別室等で本人と思うままに母語で会話させてあげる時間を設けることでストレスを軽減している例もあります。母語支援員等のいない場合は、時々保護者の方に学校に来ていただき、会話をする時間を作るという方法もあります。片言の日本語を話す子は、ともすると相手に幼稚な印象を与えがちです。ところが、その子が母語で流暢に話す姿を見ると他の子たちがその子を見直すようになる場合があります。もちろんこれらはあくまでも一例であり、実際には子どものタイプや学校の状態に合わせて様々な取り組み方を工夫することになります。

これらの事例に共通するのは学校の中にその子の母語を存在させることで、ことばの上でも「居場所」を作ってあげることです。さらに、そうした取組を通して、周りの子どもたちにも教育効果をもたらすという副次的なメリットもあります。

